令和6年度　大田区立中富小学校　自己評価　報告書

学校名	中富小学校
校長名	令和6年10月1日

○　本校の概要

本校は大田区北東部に位置している、海岸は遠方立てがずれ、次くから遠浅・海岸は公園・散策路として整備されている。近隣にはかるさとの浜辺公園として整備されている。人工海浜が設置され、大規模な集合住宅はなく、落ち着いた住宅が建ち並ぶ地域環境である。その地域性を生かした海辺を学校や取りれ、本校独自の取組として、児童自ほ10人程度から規模校であるため、新の読み聞かや活動では多くの保護者がボランティアとして活動を支援する体制が整っている。行事では、夏休中ではなく数個の学年で協同、ながら行うことで、他学年（特に下に位る学年）に対する思いやりと優しさが育まれる活動を行っている。少人数を生かした教育活動を実践している。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者評価		コメント
								評価	人数	
生涯学習を通じて、豊かな人間性や、たくましく生きる力を育む教育を推進します。 生涯学習を通じて、豊かな人間性や、たくましく生きる力を育む教育を推進します。 生涯学習を通じて、豊かな人間性や、たくましく生きる力を育む教育を推進します。 生涯学習を通じて、豊かな人間性や、たくましく生きる力を育む教育を推進します。	社会の様々な課題を解決し、豊かな未来を創造する力を育成します。 社会の様々な課題を解決し、豊かな未来を創造する力を育成します。 社会の様々な課題を解決し、豊かな未来を創造する力を育成します。 社会の様々な課題を解決し、豊かな未来を創造する力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学び や科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っています。 ②学校内外での様々な体験活動や自治部を行う児童づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っています。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っています。 ④大田区独自教科「おおたの未来づくり」の研究実践校として、カリキュラム開発や実践文書等に、児童が、自ら考え、情報を活用・探求する能力の育成を図っています。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケートの回答「おたしは、タブレットを活用して学習していますか」および 保護者学校評価アンケートの設問「学校は、タブレットを使って児童が学習に取り組めるような情報活用能力を付けていると思うか」に対し、肯定的な回答（よくあてはまる・あてはまる）をした教員	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	○今年度末活用実践発表部「おおたの未来づくり」研究実践校として、STEAM教育を軸にたくみのづくり（地域の教育）を通して、児童に創造的な発見・能力の育成に取り組んだ。各教員で「おおたの未来づくりのカリキュラム構築、授業研究、地域協働教育の作成」に取り組んだ。教科横断的な学習を通して、児童の思考力・表現力・主体的な態度の育成を図った。児童の興味を活用するとともに、学習内容を地域に発展した。 ○地域にある「大森ふるさとの浜辺公園」が「風車」（写真参照）たくみ（ものづくり）クラシーとふるさと浜と未来大森（ボランティア）。 ○ICT機器を活用した授業実践校に実践したことで、児童の興味を引き、学びのモチベーションを高めることができた。また、プレゼンテーションソフトや電子黒板やアプリを活用したことで、考えやすくアイデア表現に表現することが表われた。それぞれ、自身の学習について「はっきりクラスの中で、自信をもって学習していきます」と回答した児童が、授業研・保護研の学習参観後から、 ※児童アンケートの「わたしは、タブレットを活用して学習していますか」に対しての肯定的回答は、令和5年度の「タブレットを活用して学習していますか」に対しての肯定的回答は、令和6年度の「情報活用能力を付けていると思うか」に対しての肯定的回答は約73%であった。（肯定的回答は約7%、「わからない」は約20%）であった。このことから、学校の取り組みが保護者に十分に伝わっていない部分がある。今後も引き続きICT機器を活用した学習を、教科に応じて最適な形で、学校の取組内容について理解していただけるよう努力する。	A	7	タブレットを使って発表したり課題を提出したり、とても便利になった半面、学生者（機会が減り漢字を覚えるのが苦手になるのではないか。 筆圧をかけてたくさん学生者ことで頭にはいるか思う。少なくとも私が子供のころは書き取りの宿題が続けていた。 学習発表会で高学年の「おおたの未来づくり」に関する発表は題材は素晴らしかったですが、伝わりにくい部分がありもったいないと感じた。
								B	6	
								C	0	
								D	0	
お世話になった方々に感謝する気持ちを育み、地域の人々を大切にする心を育てます。 お世話になった方々に感謝する気持ちを育み、地域の人々を大切にする心を育てます。 お世話になった方々に感謝する気持ちを育み、地域の人々を大切にする心を育てます。 お世話になった方々に感謝する気持ちを育み、地域の人々を大切にする心を育てます。	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、豊かな国や郷土の伝統文化に触れ、親しみながら国際理解を深めます。 英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、豊かな国や郷土の伝統文化に触れ、親しみながら国際理解を深めます。 英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、豊かな国や郷土の伝統文化に触れ、親しみながら国際理解を深めます。 英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、豊かな国や郷土の伝統文化に触れ、親しみながら国際理解を深めます。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら自信をもって積極的に発言する児童の育成を図っています。 ②郷土や国や諸土の伝統や文化が学ぶ、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や情報機能をつ相手を理解し、互いに尊重し合う態度の育成を図っています。 ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え行動する力が図っています。 ④学校の特色である「海苔の学習」に、本校独自で作成した「海苔の学習系統表」を基に全学年で取り組んでいる。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、伝統文化を尊重するような時間や取組はあると思うか」および 保護者学校評価アンケートの設問「学校は、伝統文化や郷土の伝統や文化を尊重するような時間や取組はあると思うか」に対し、肯定的回答（よくあてはまる・あてはまる）をした教員	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○外国語指導員を活用し、ゲームや歌等を取り入れた楽しい授業を行うとともに、ことばの発音より引き出した、発音はより自分なりの表現ふまり、イメージ、ジェスチャーを通して、相手に伝えようとする意識を高めた。 ○人権週間には全校で人権に関する授業や絵本読み聞かせを実施し、たとえば、「ちがいを認め合う」という題材で、人権に関する理解を深めることができた。 ○社会や郷土の授業を通して見聞を広げ郷土愛を深める。6/20のようにいつ平和でいたり、道端の授業を通して平和と人権などについて学んでいた。 ○地域の方や大森海苔のふるさと館と連携しながら、全学年が海苔付け体験し、また、授業で海苔の養殖や海苔の生育などについて学んでいた。また、教員研究「おおたの未来づくり」において、5・6年生は海苔を使用し、たしかに郷土や地域のよさを伝える学習に取り組んだ。 ○保護者アンケートの「学校は、伝統文化を尊重するような時間や取組は有効だと思いますか」に対しての肯定的回答は約92%であった。「海苔の学習」についての取り組みが保護者にイメージ伝わっていることが考えられる。	A	8	中富小の特色の「海苔の文化」について知識を得たり経験（海苔つけ体験を全学年で実施した）をする機会がありよかった。自分で海苔付けした海苔を実際に食べることは、来年度以降もぜひ続けてほしい。 「おおたの未来づくりに海苔の学習を取り入れることは、学校の立地上とても恵まれていると、素適なテーマだ。 今年度の海苔付け体験は全学年で行えたことを大変うれしく思う。みんなで自分で作った海苔を試食し、感想を書い合う機会があればなおよいと感じた。
								B	5	
								C	0	
								D	0	
一人一人の個性を大切にし、自ら学ぶ力を育てます。 一人一人の個性を大切にし、自ら学ぶ力を育てます。 一人一人の個性を大切にし、自ら学ぶ力を育てます。 一人一人の個性を大切にし、自ら学ぶ力を育てます。	児童・生徒が豊かな人生を生きていくて基礎となるカとして、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から小学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っています。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っています。 ③体育や保健体育の授業などが健全で健康な子育て、保護者育や支育を推進し、基礎的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から小学校までの連携や小一プロブレムの解決に向けた教育を行っている。 ⑤「わかる、できる・たのしい・認められる」授業の実施のために、年間10回のOJT研修の実施など、授業改善のための研修に取り組んでいる。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケートの設問「おたしは、授業や施設がかなりよくなってきたと」および 保護者学校評価アンケートの設問「学校の授業や学力が向上していると思うか」に対し、肯定的回答（よくあてはまる・あてはまる）をした教員	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	○道徳教育推進リーダーを中心に道徳授業の充実を図り、学校の教育課題の向上に務めることができた。 ○担任は児童の学習上の課題や規範意識の高まを感じ、個に応じた指導ができるように務めた。また、3年生以上の児童を対象に年間20回、放課後補習教室「年の星」を行い、算数の苦手に取り組んだ。 ○体育で「陸上・手作り・跳び箱」運動に取り組んだ。「陸上・陸上運動」では、「陸上・陸上運動」では、「陸上・陸上運動」では、